

We love
ASHIYA



芦屋市

人口ビジョン

【目次】

1. 人口の現状分析.....	2
(1) 人口の推移.....	2
① 総人口及び世帯数の動向	2
② 年齢4区分人口.....	3
③ 年齢別人口構成.....	5
(2) 自然増減に関する分析.....	6
① 出生・死亡の状況.....	6
② 未婚の状況	9
③ 結婚・出産・子育てなどに関する市民意識	10
(3) 社会増減に関する分析.....	13
① 転出入の状況.....	13
② 年齢別転出入.....	16
③ 年齢階層の移動状況	17
④ 定住意向や居住環境に関する市民意識	18
⑤ 昼夜間人口	21
⑥ 労働力人口・就業者数	22
2. 人口の将来推計.....	25
(1) 本市の独自推計による将来人口	25
(2) 将来人口のシミュレーション	27
① 合計特殊出生率が現在の全国平均値に上昇した場合	27
② 合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合（パターン1）	28
③ 合計特殊出生率が国の目標値まで上昇した場合（パターン2）	29
④ 合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇した場合.....	30
⑤ 「出生数維持」の考え方に基づく場合	31
⑥ 「出生数維持」及び「社会増」の考え方に基づく場合	32
(3) 人口シミュレーションの結果まとめ	33
3. 人口減少により想定される影響	36
(1) 地域経済・本市の行財政等への影響.....	36
(2) 市民生活への影響.....	36
4. 本市の目指すべき将来の方向	37

1. 人口の現状分析

(1) 人口の推移

① 総人口及び世帯数の動向

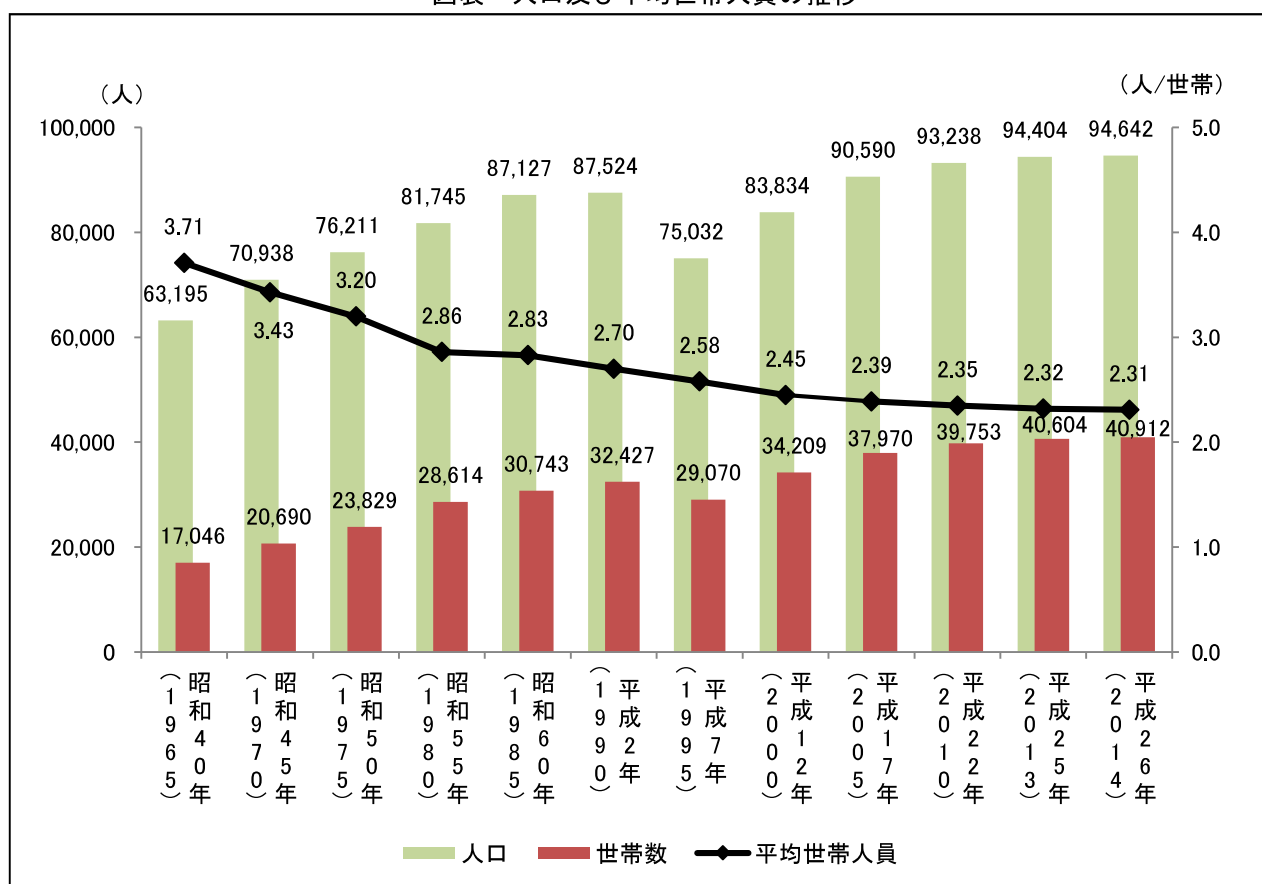
本市の総人口は増加を続けていましたが、阪神・淡路大震災の影響により、平成7年（1995年）にはいったん大きく減少しました。

その後は震災復興事業に伴って徐々に人口は回復し、平成17年（2005年）には震災前の人口を上回り、9万人を超えました。

その後も南芦屋浜地区への入居等もあり、人口の増加は続けていましたが、近年、増加は緩やかとなり、平成26年（2014年）は94,642人となっています。

世帯数も人口と同様の動きで推移しており、平成22年（2010年）で39,753世帯、平成26年（2014年）で40,912世帯となっています。一方、平均世帯人員は減少を続けており、平成22年（2010年）で2.35人/世帯、平成26年（2014年）で2.31人/世帯となっています。

図表 人口及び平均世帯人員の推移



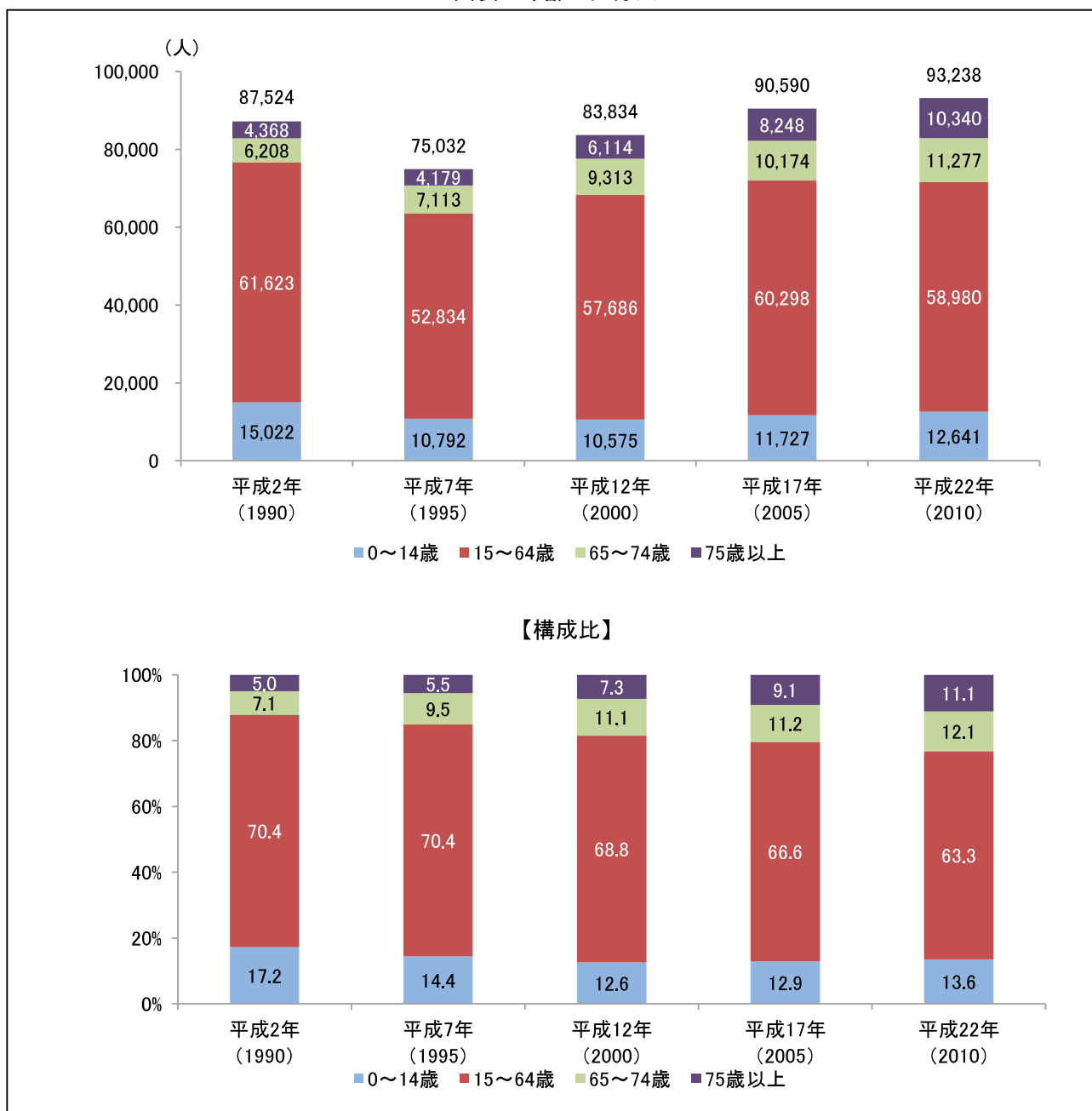
(資料) 国勢調査, 平成25, 26年は芦屋市将来人口推計報告書 (平成27年3月)

※各年10月1日現在

② 年齢4区分人口

年齢4区分での人口構成比を見ると、生産年齢人口比率（15～64歳の人口比率）が低下し、高齢化率（65歳以上の人口比率）が上昇しています。一方、年少人口比率（0～14歳の人口比率）は平成12年(2000年)まで低下していましたが、以降は上昇に転じています。

図表 年齢4区分人口



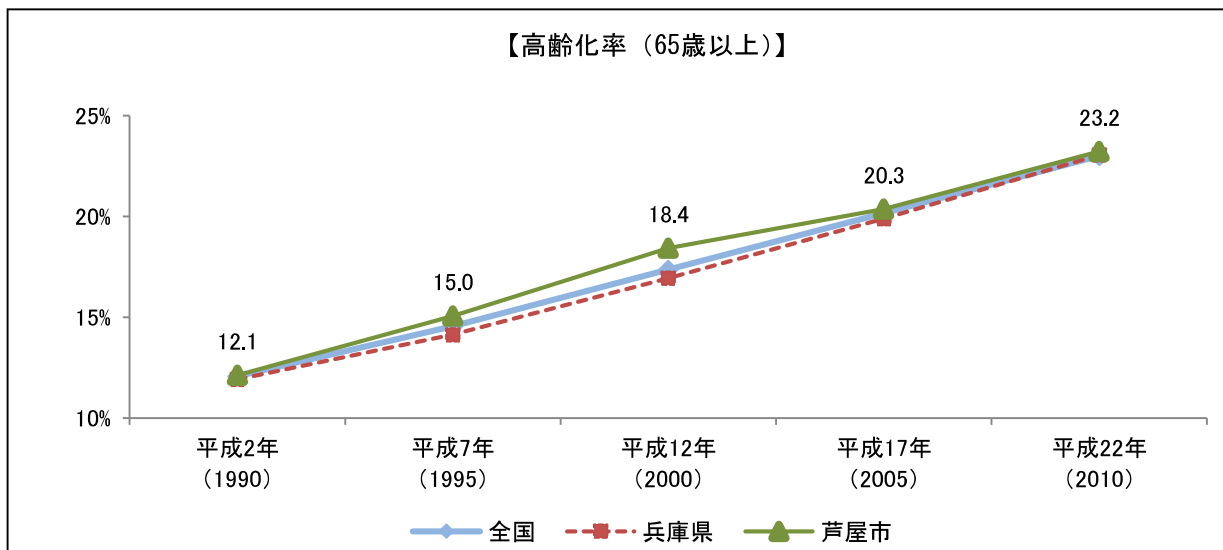
(資料) 国勢調査

※各年10月1日現在

※総人口には年齢不詳分を含むため、年齢4区分人口の合計とは一致しない。また、構成比は年齢不詳分を除いた合計値を母数として算出している。(次ページも同様)

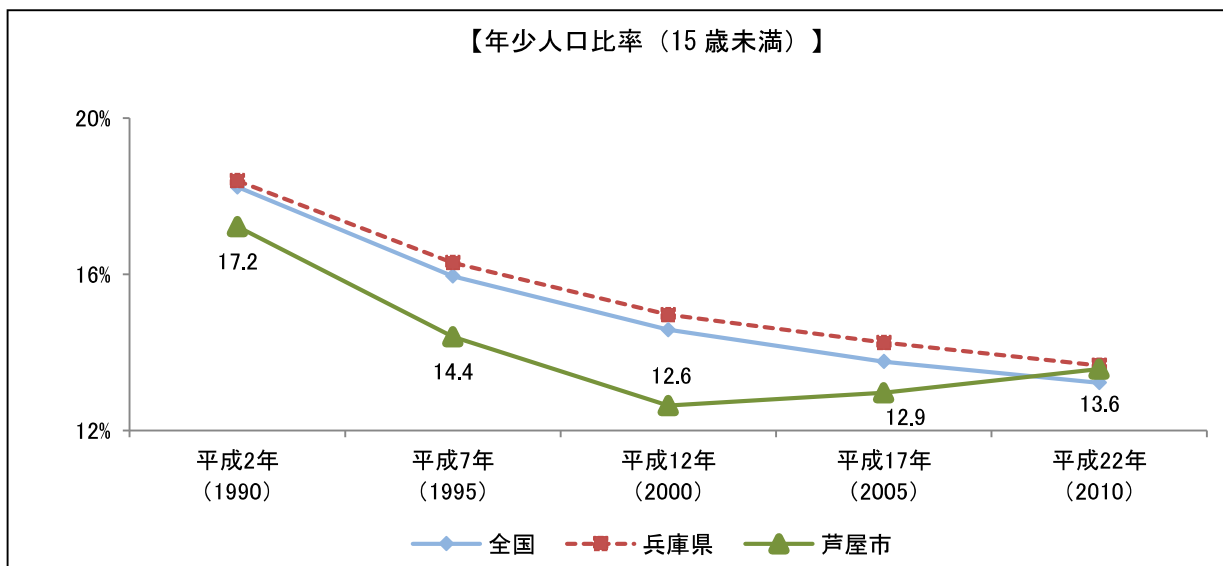
全国、兵庫県と比較すると、高齢化率はほぼ同水準で推移しています。一方、年少人口比率は、全国、兵庫県を下回る水準で推移していましたが、近年は上昇し、平成22年（2010年）では、全国を上回り、兵庫県とほぼ同水準となっています。

図表 高齢化率・年少人口比率の比較



		平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)
高齢化率(65歳以上)	芦屋市	12.1	15.0	18.4	20.3	23.2
	兵庫県	11.9	14.1	16.9	19.9	23.1
	全国	12.1	14.6	17.4	20.2	23.0

(資料) 国勢調査 ※各年10月1日現在



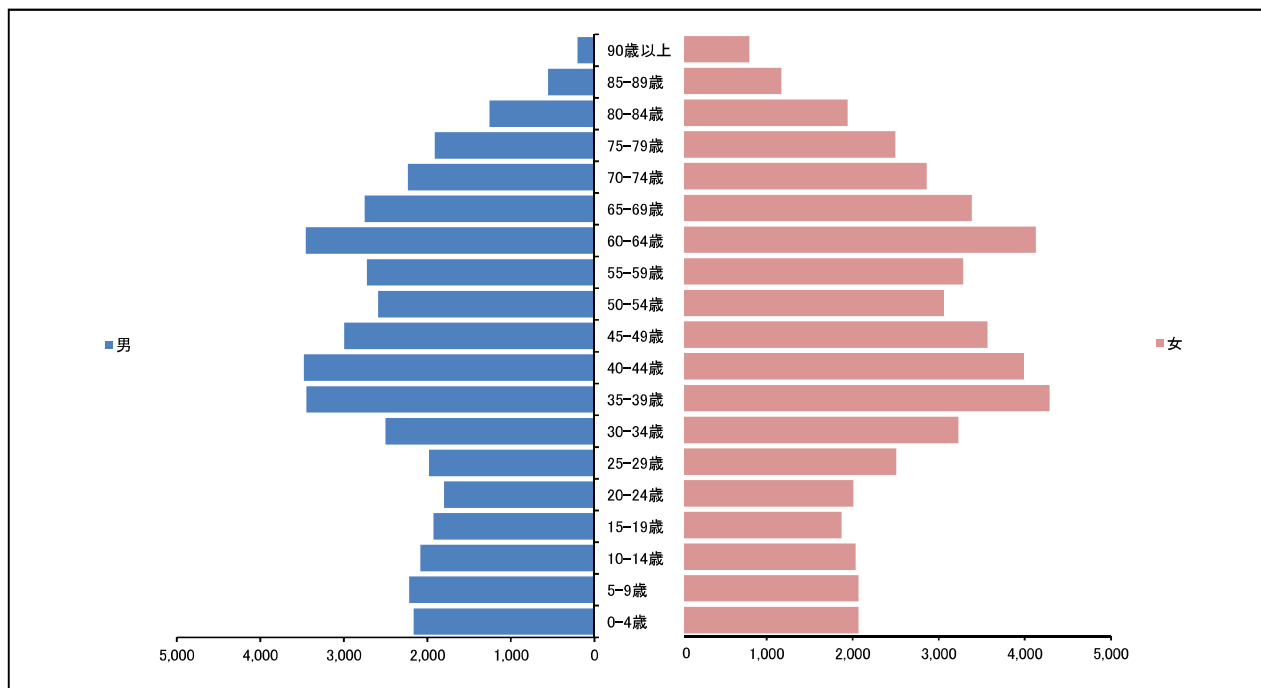
		平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)
年少人口比率(15歳未満)	芦屋市	17.2	14.4	12.6	12.9	13.6
	兵庫県	18.4	16.3	15.0	14.3	13.7
	全国	18.2	16.0	14.6	13.8	13.2

(資料) 国勢調査 ※各年10月1日現在

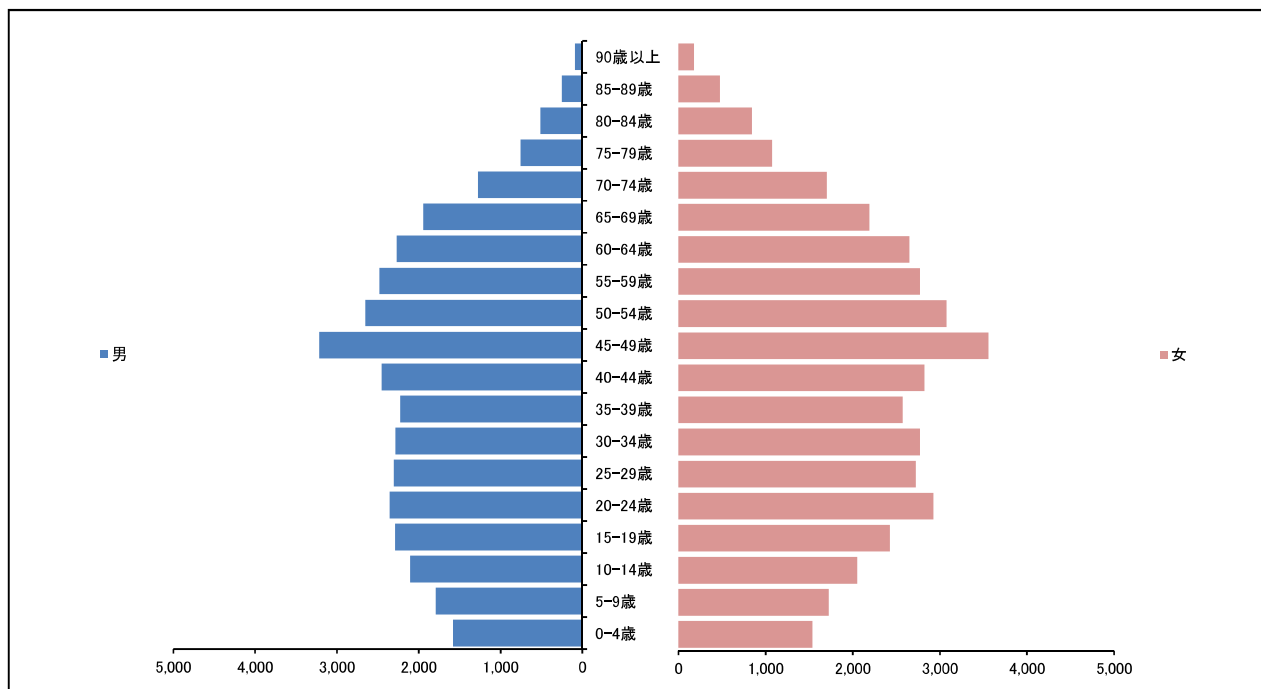
③ 年齢別人口構成

年齢別人口の構成を見ると、平成22年（2010年）では、35～44歳及び60～64歳に顕著なピークが見られ、団塊世代及び団塊ジュニア世代の多いことがわかります。平成7年（1995年）の構成と比較すると、平成7年（1995年）では団塊世代は多いものの、団塊ジュニア世代はそれほど突出していないことから、団塊ジュニア世代は震災後に多く転入してきたと考えられます。

図表 人口ピラミッド（平成22年（2010年））



図表 人口ピラミッド（平成7年（1995年））



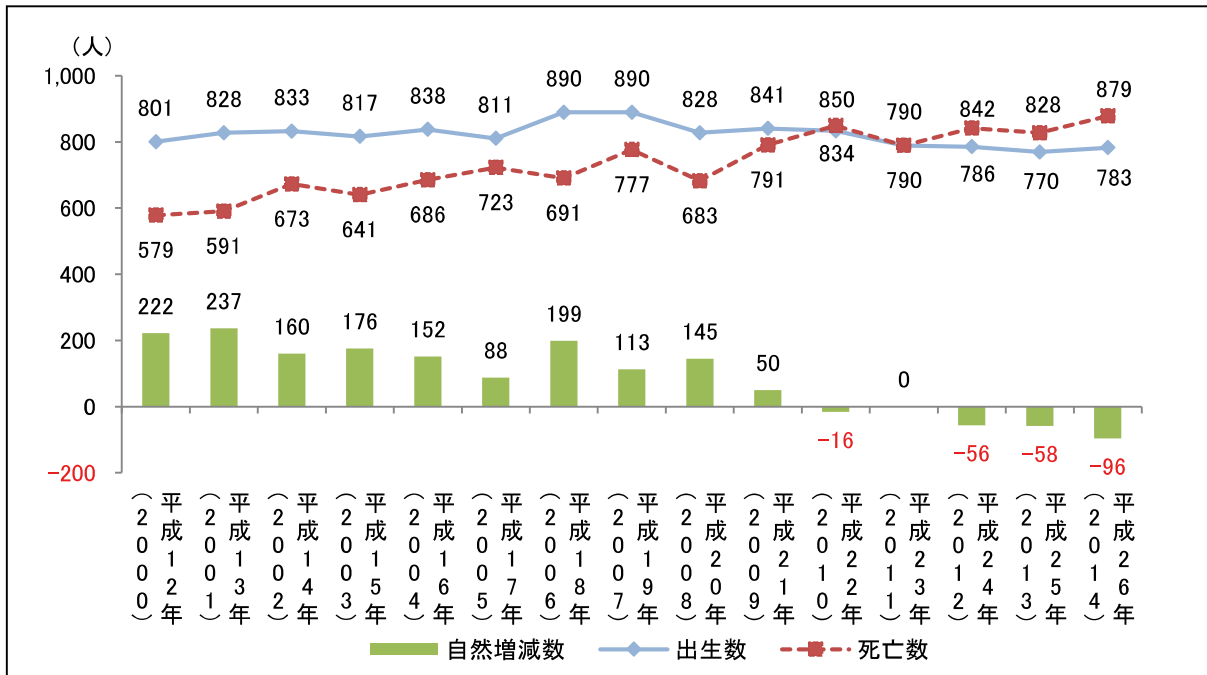
（資料）国勢調査 ※各年10月1日現在

(2) 自然増減に関する分析

① 出生・死亡の状況

自然増減については、平成21年（2009年）までは出生数が死亡数を上回っていましたが、以降は逆転し、近年は死亡数が出生数を上回る自然減の状況で推移しています。

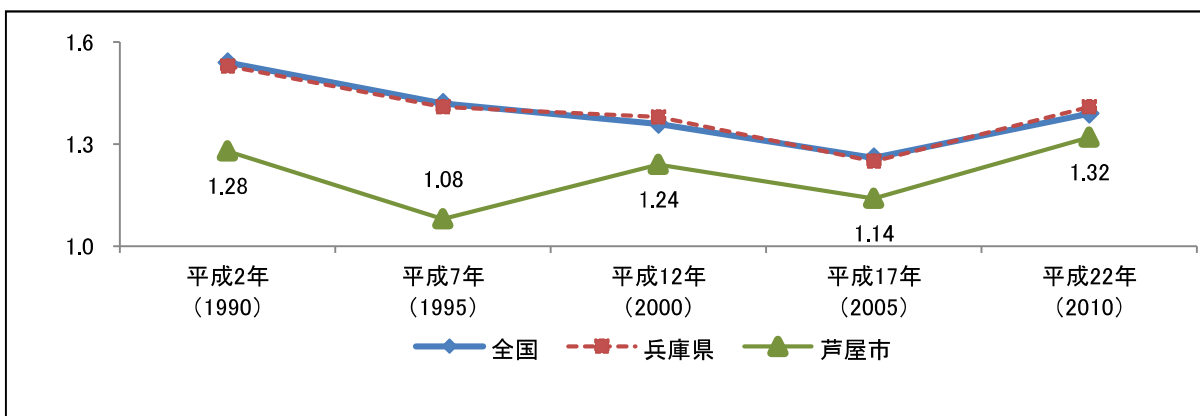
図表 出生・死亡数の推移



(資料) 芦屋市統計書

合計特殊出生率は、上昇傾向にはあるものの、全国や兵庫県と比べて低い水準となっています。

図表 合計特殊出生率の推移

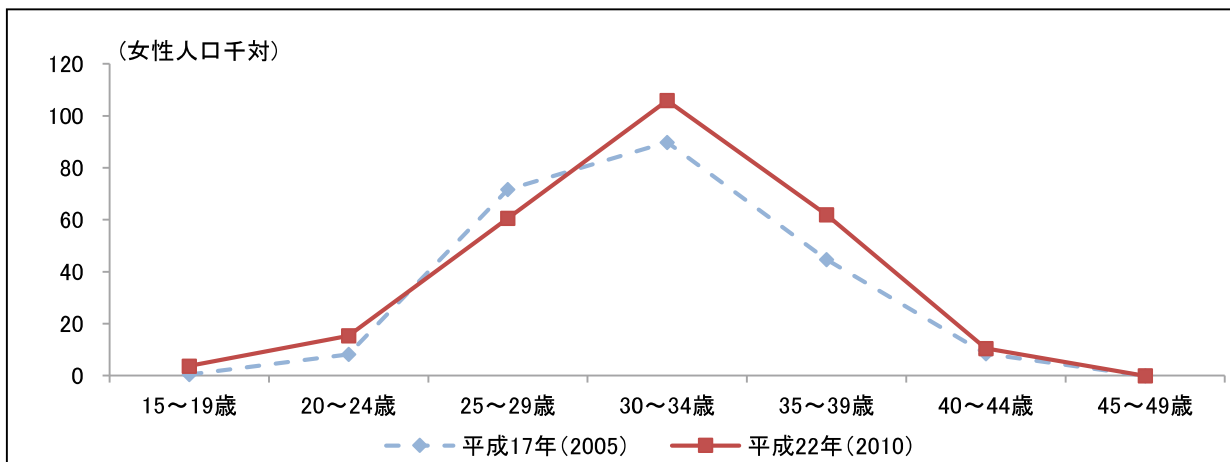


	平成2年(1990)	平成7年(1995)	平成12年(2000)	平成17年(2005)	平成22年(2010)
芦屋市	1.28	1.08	1.24	1.14	1.32
兵庫県	1.53	1.41	1.38	1.25	1.41
全国	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39

(資料) 兵庫県保健統計年報

母の年齢階級別出生率を見ると、平成17年（2005年）は母の年齢が30～34歳が最も多く、次いで25～29歳となっていました。平成22年（2010年）では30～34歳に次いで多い層が35～39歳と年齢の高い層が増加しています。

図表 母の年齢階級別出生率

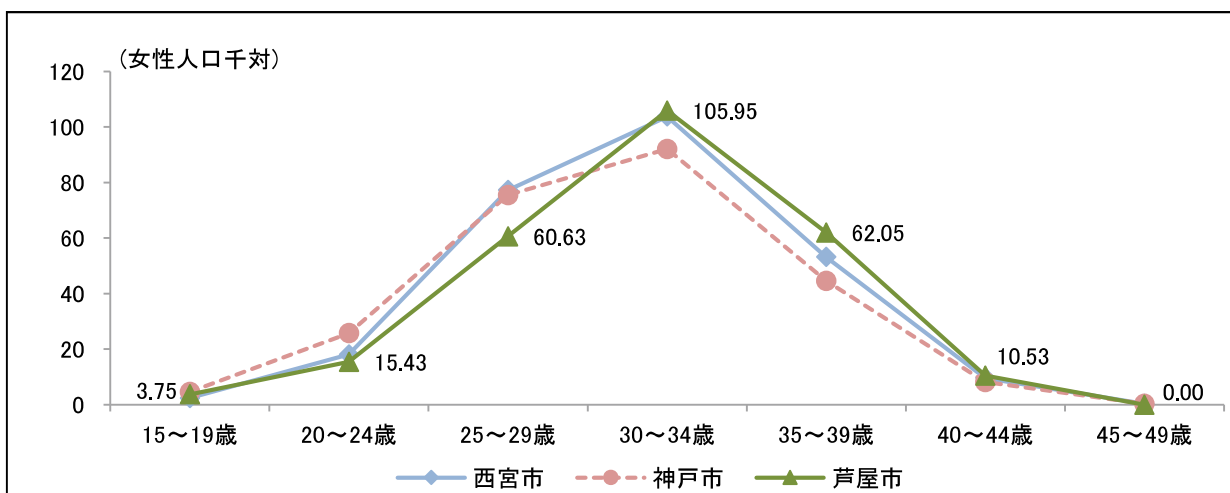


	母の年齢階級別出生率(女性人口千対)						
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
平成17年(2005)	0.51	8.24	71.71	89.90	44.79	8.48	0.00
平成22年(2010)	3.75	15.43	60.63	105.95	62.05	10.53	0.00

(資料) 兵庫県保健統計年報, 国勢調査

平成22年（2010年）の年齢階級別出生率を近隣市と比較すると、芦屋市では、20～29歳の年齢層は神戸市、西宮市と比較すると低いですが、30～39歳の年齢層では逆に高くなっているのが特徴となっています。

図表 母の年齢階級別出生率の近隣市との比較（平成22年（2010年））

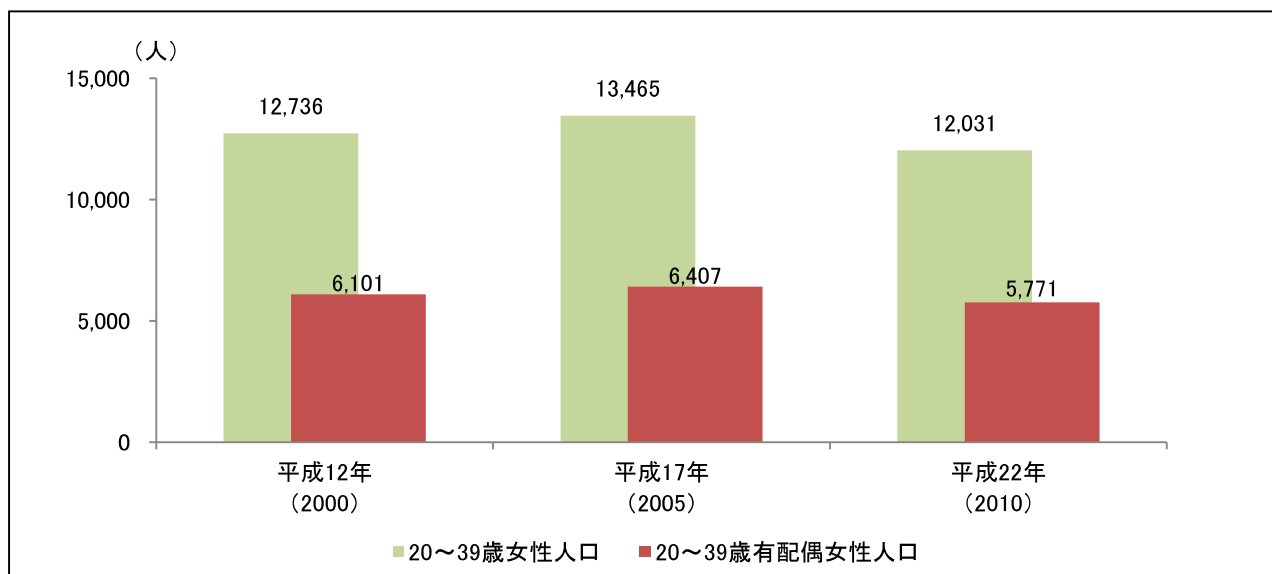


	母の年齢階級別出生率(女性人口千対)						
	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳
芦屋市	3.75	15.43	60.63	105.95	62.05	10.53	0.00
神戸市	4.65	25.8	75.5	92.13	44.65	8.19	0.33
西宮市	2.44	18.09	77.28	103.8	53.2	9.65	0.36

(資料) 兵庫県保健統計年報, 国勢調査

出産における中心年代である20～39歳の女性人口と有配偶女性人口の推移を見ると、20～39歳の女性人口、有配偶女性人口とも減少傾向にあります。

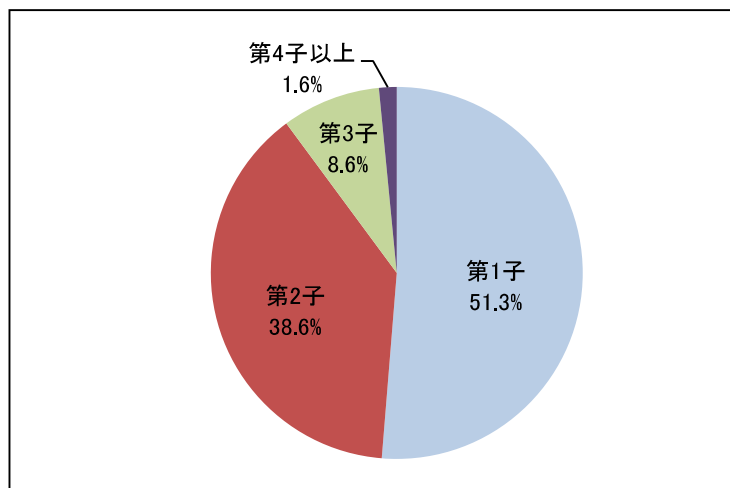
図表 20～39歳女性人口の推移



(資料) 国勢調査, 芦屋市統計書

出生数の出生順位について見ると、平成25年(2013年)の出生数770人のうち、第1子が51.3%とほぼ半数を占めており、第2子が38.6%、第3子が8.6%、第4子以上が1.6%となっており、大部分が1人目の子どもまたは2人目の子どもとなっています。

図表 出生順位別出生数の割合 (平成25年 (2013年))



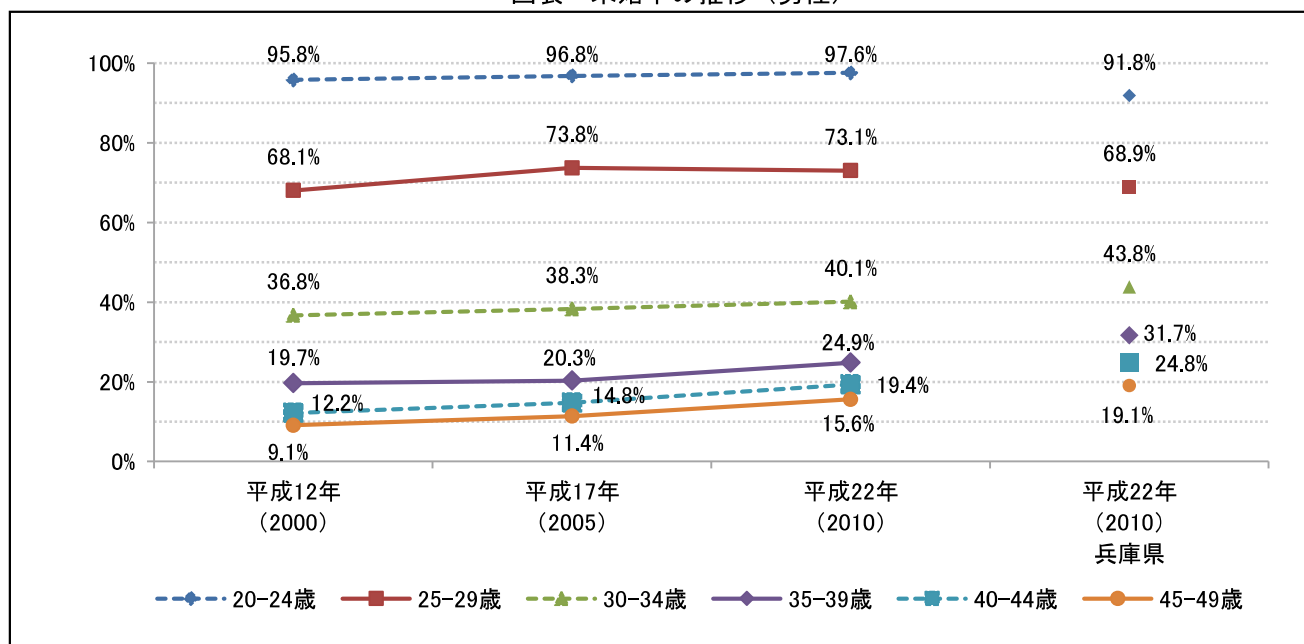
(資料) 兵庫県保健統計年報

② 未婚の状況

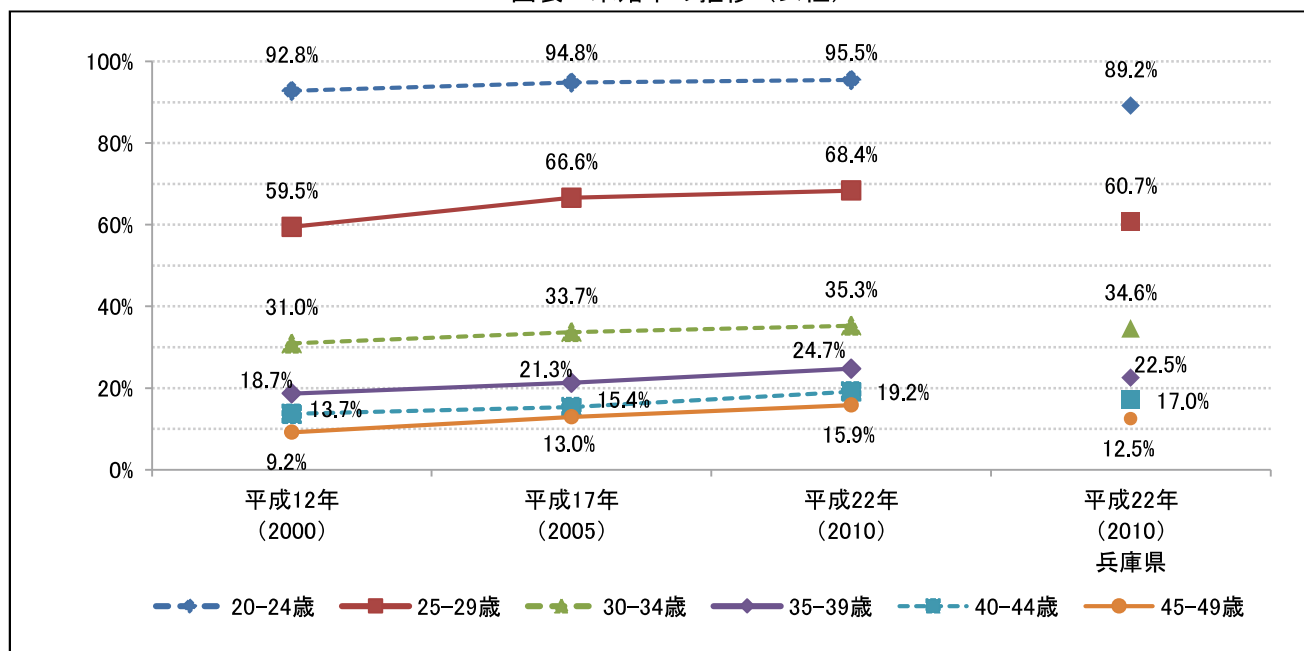
20歳代～40歳代の未婚率（結婚していない人の割合）を見ると、男性では、25～29歳の層を除き、未婚率は上昇傾向にあります。平成22年（2010年）で兵庫県と比較すると、20歳代の未婚率は本市が高い一方、30歳代以上では兵庫県の方が高くなっています。

一方、女性では、全年齢層で未婚率は上昇傾向となっています。平成22年（2010年）で兵庫県と比較すると、全年齢層で本市の方が未婚率は高くなっています。

図表 未婚率の推移（男性）



図表 未婚率の推移（女性）



(資料) 国勢調査 ※各年10月1日現在

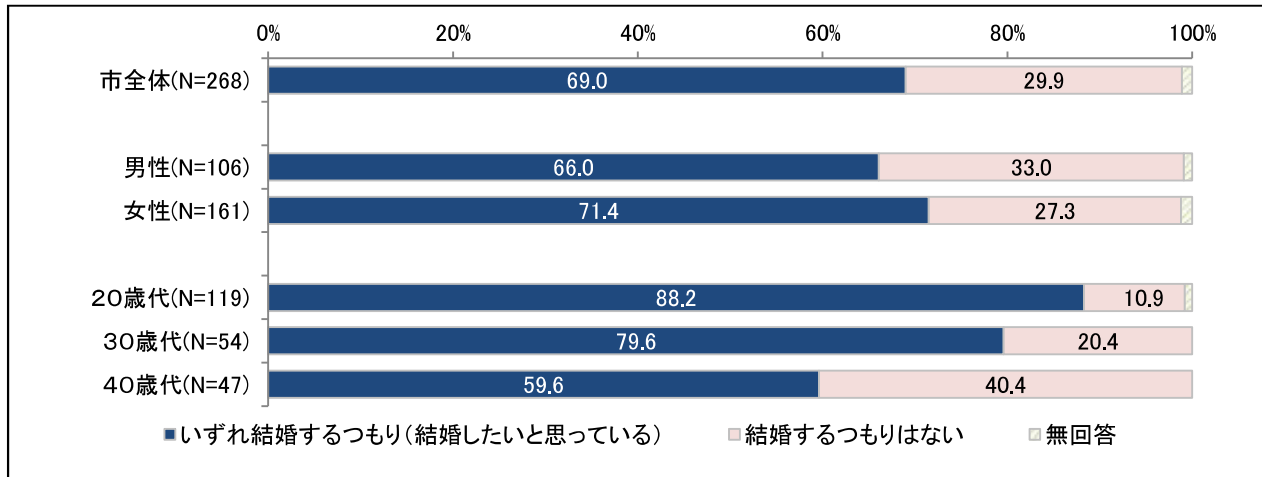
③ 結婚・出産・子育てなどに関する市民意識

「芦屋のまちづくりについての市民アンケート調査」（平成27年（2015年）3月実施）の結果をもとに、自然増減に関わる結婚・出産・子育てなどについての市民意識を分析しました。

(ア)未婚（独身）の方の結婚に対する考え

いずれ結婚するつもり（結婚したいと思っている）の割合は、「20歳代」が88.2%、「30歳代」が79.6%、「40歳代」が59.6%となっています。

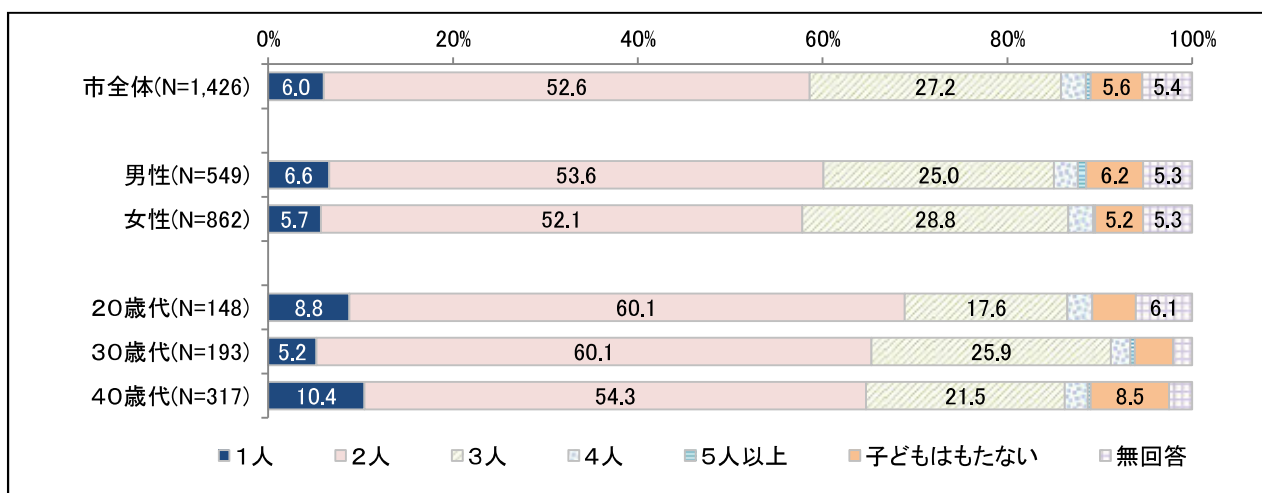
図表 未婚（独身）の方の結婚に対する考え（性別・年代別）



(イ)理想的な子ども的人数

理想的な子ども的人数は、どの年代も「2人」の割合が最も高くなっており、「3人」が続いています。配偶者があり、子どもを持つつもりの方の回答者の理想的な子ども的人数の平均は2.32人となっています。国立社会保障・人口問題研究所が実施した出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査、平成22年（2010年）調査）における理想子ども数は2.42人であり、本市は0.1人下回っています。

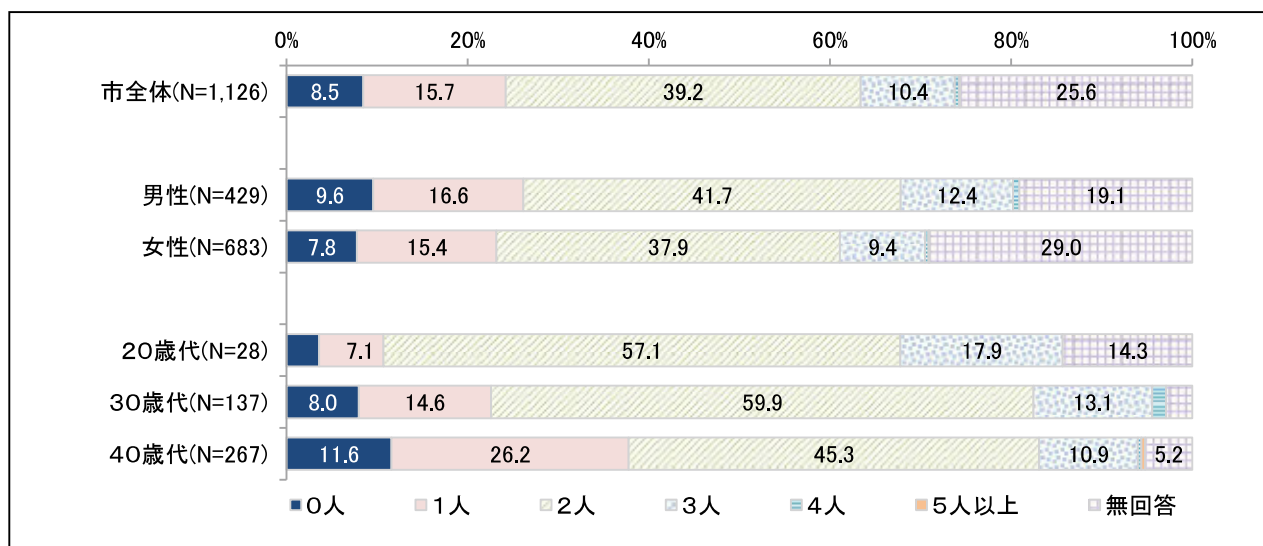
図表 理想的な子ども的人数（性別・年代別）



(ウ)持つつもりの子どもの人数

現在の子どもの人数と今後予定の子どもの人数を合わせた「持つつもりの子どもの人数」は、「理想的な子どもの人数」と同様に「2人」が39.2%で最も多くなっています。しかし、次いで多い人数は「理想的な子どもの人数」が「3人」に対して「1人」となっています。年代別では、「30歳代」と「20歳代」で「2人」の割合が高くなっています。

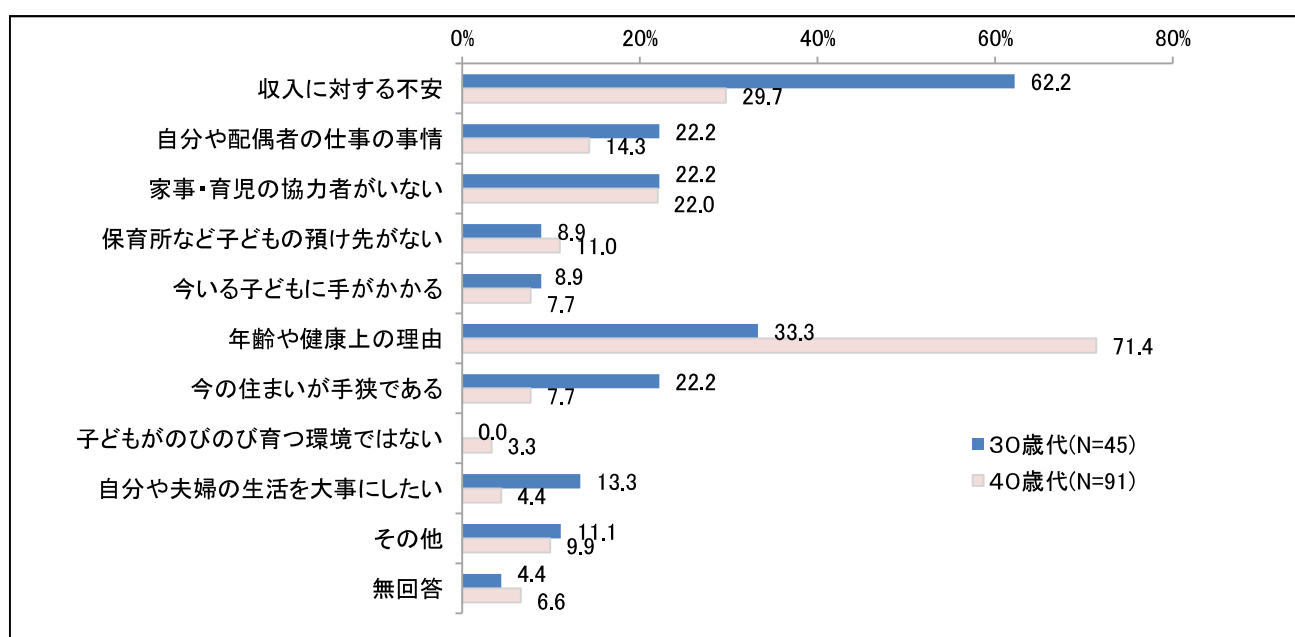
図表 持つつもりの子どもの人数（性別・年代別）



(I)理想的な子どもの人数より少ない原因

持つつもりの子どもの数が理想的とする子どもの数より少ない原因は年代別では、30歳代では「収入に対する不安」が62.2%で最も多く、40歳代では「年齢や健康上の理由」が最も多くなっています。

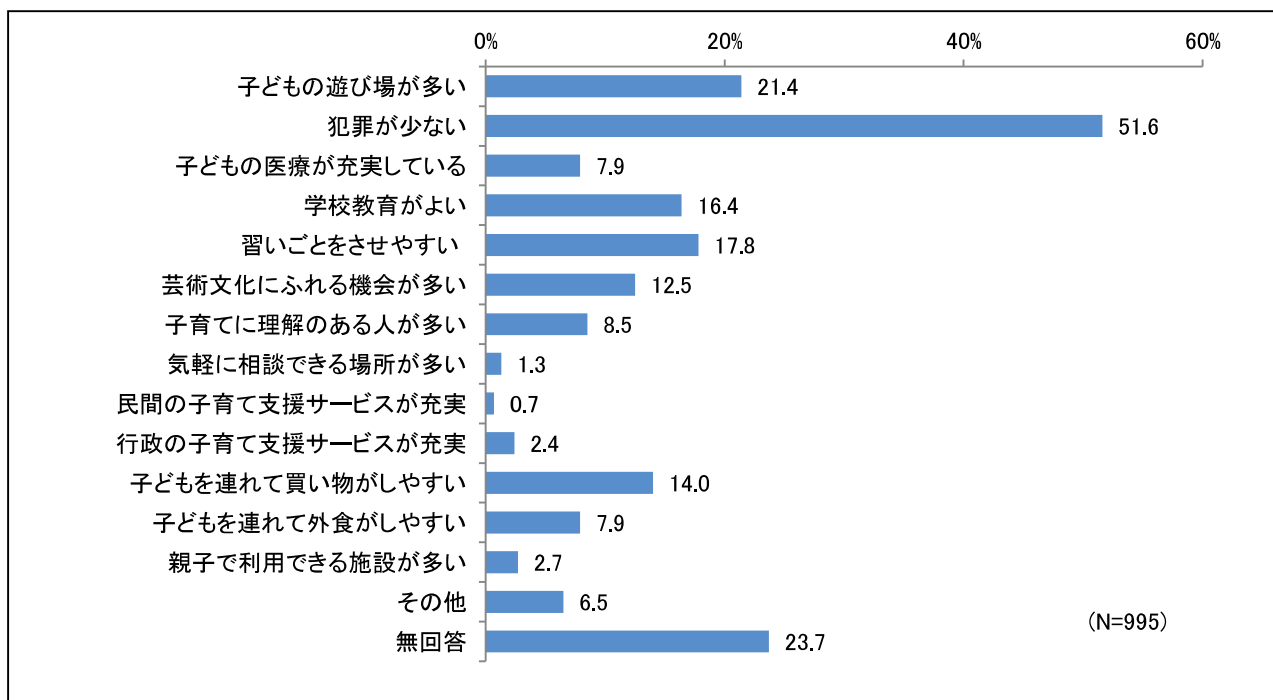
図表 理想的な子どもの人数より少ない原因



(ウ)子育てでの芦屋市の魅力

子育てでの本市の魅力は「犯罪が少ない」が51.6%で最も多く、「子どもの遊び場が多い」が21.4%と続いています。

図表 子育てでの芦屋市の魅力

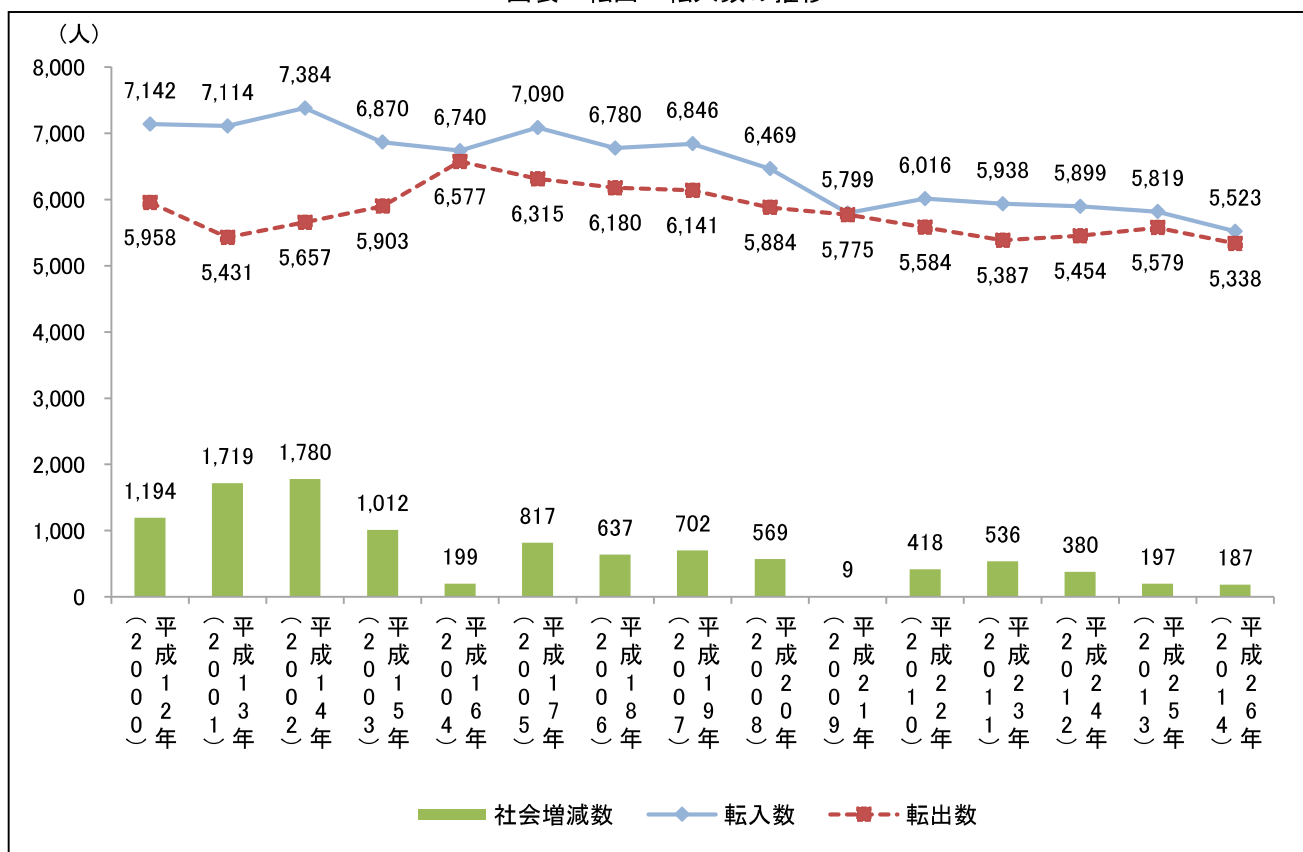


(3) 社会増減に関する分析

① 転出入の状況

社会増減について転出入の状況を見ると、転出より転入が多い状況で推移しています。社会増減は年によって違いがありますが、平成15年（2003年）まで1,000人を超えており、以降は差が小さくなっています。

図表 転出・転入数の推移



(資料) 芦屋市統計書

※社会増減数には他の要因による増減数も含むため、「転入数－転出数」とは一致しない。

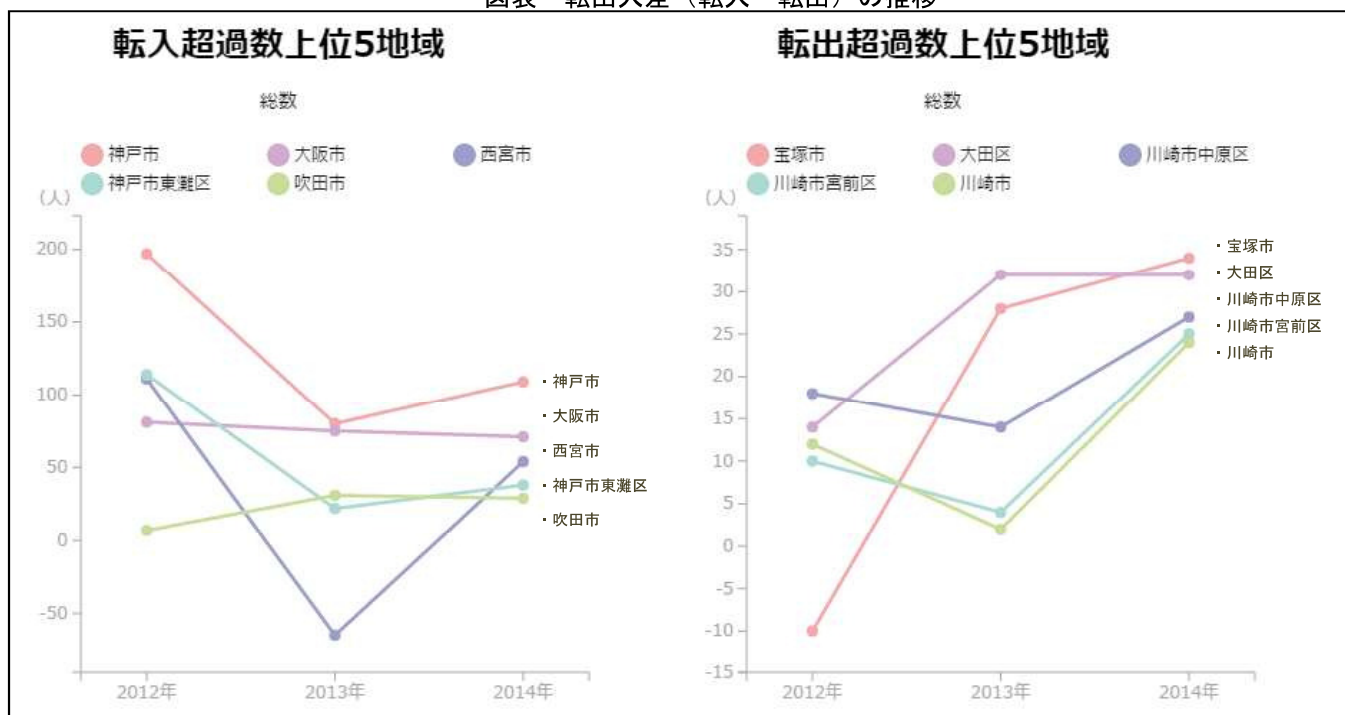
転出入先を見ると、転入元、転出先とも、隣接する神戸市が最も多くなっています。転出入差では、平成26年(2014年)は近隣の神戸市、西宮市からは転入が多く、尼崎市、宝塚市では転出が多くなっています。また、大阪府では転入、東京都では転出の方が多い状況です。

図表 転出入先

	平成 24 年(2012)			平成 25 年(2013)			平成 26 年(2014)		
	転入元	転出先	転入－ 転出	転入元	転出先	転入－ 転出	転入元	転出先	転入－ 転出
神戸市	1,214	1,017	197	1,099	1,019	80	1,106	997	109
うち東灘区	565	451	114	456	434	22	453	415	38
うち灘区	125	112	13	122	99	23	115	129	-14
うち中央区	120	141	-21	115	142	-27	121	98	23
その他の区	404	313	91	406	344	62	417	355	62
尼崎市	185	173	12	169	184	-15	173	186	-13
西宮市	723	612	111	660	725	-65	679	625	54
宝塚市	112	102	10	83	111	-28	82	116	-34
その他兵庫県内	501	421	80	559	413	146	495	415	80
大阪府	867	662	205	863	635	228	810	570	240
京都府	135	83	52	123	118	5	135	101	34
東京都	433	554	-121	429	635	-206	367	586	-219
神奈川県	177	192	-15	173	187	-14	170	184	-14
その他	1,081	903	178	1,014	951	63	936	827	109

(資料) 総務省住民基本台帳移動報告

図表 転出入差（転入－転出）の推移



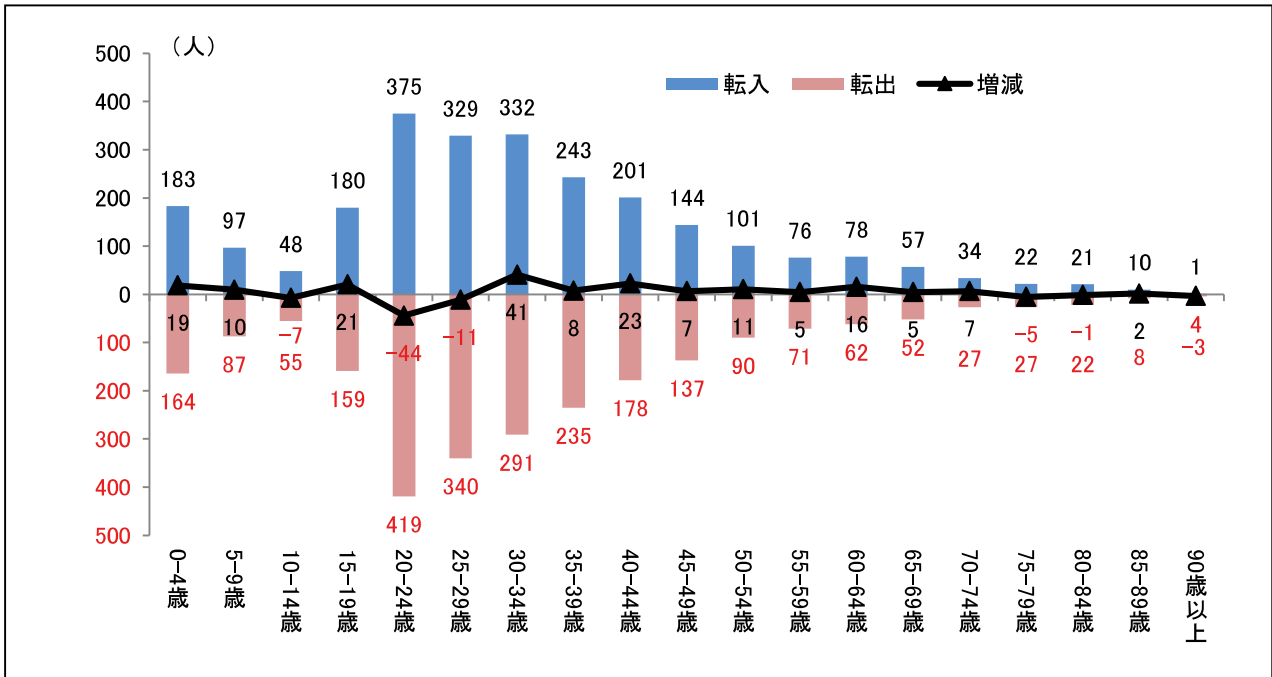
(資料) RESAS - 地域経済分析システム

② 年齢別転出入

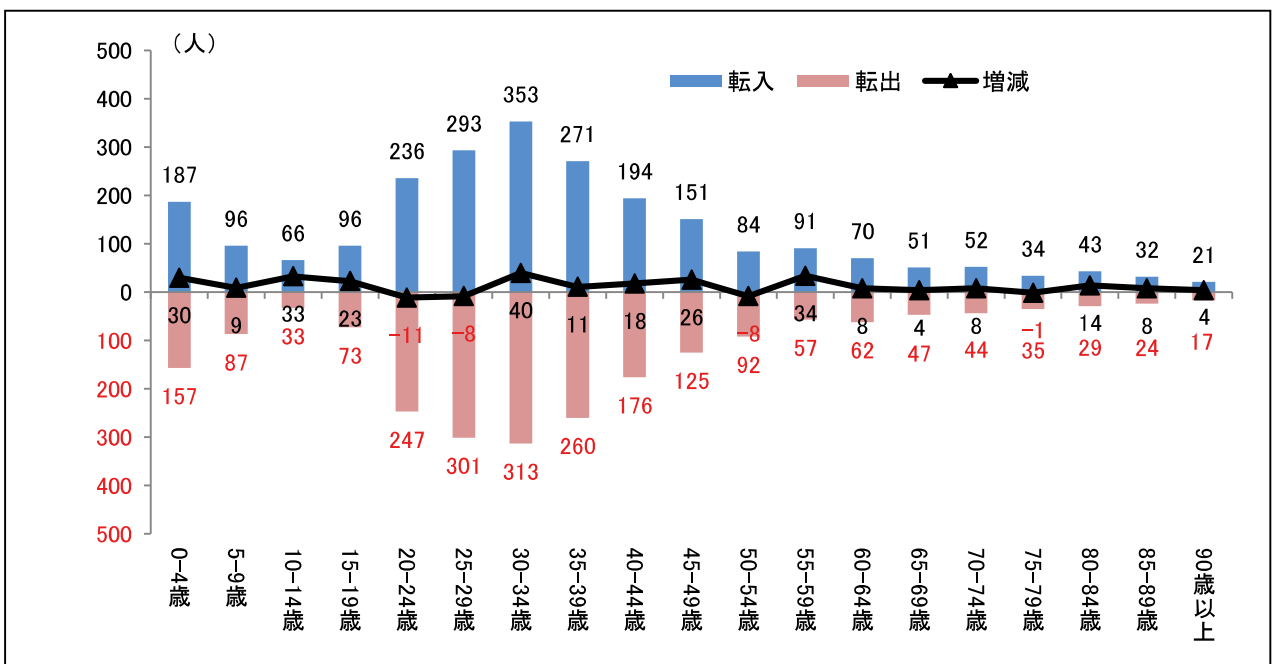
平成26年（2014年）の年齢別人口移動の状況を見ると、転入・転出ともに、男女いずれも20歳代～30歳代が多くなっています。

人口増減（転入－転出）については、男性では20歳代などで減少数が多くなっていますが、その他の年齢層ではおおむね増加となっています。女性では20歳代や50歳代前半などでやや減少が見られるものの、その他の年齢層ではおおむね増加となっています。

図表 年齢別転出入数（平成26年（2014年）；男性）



図表 年齢別転出入数（平成26年（2014年）；女性）

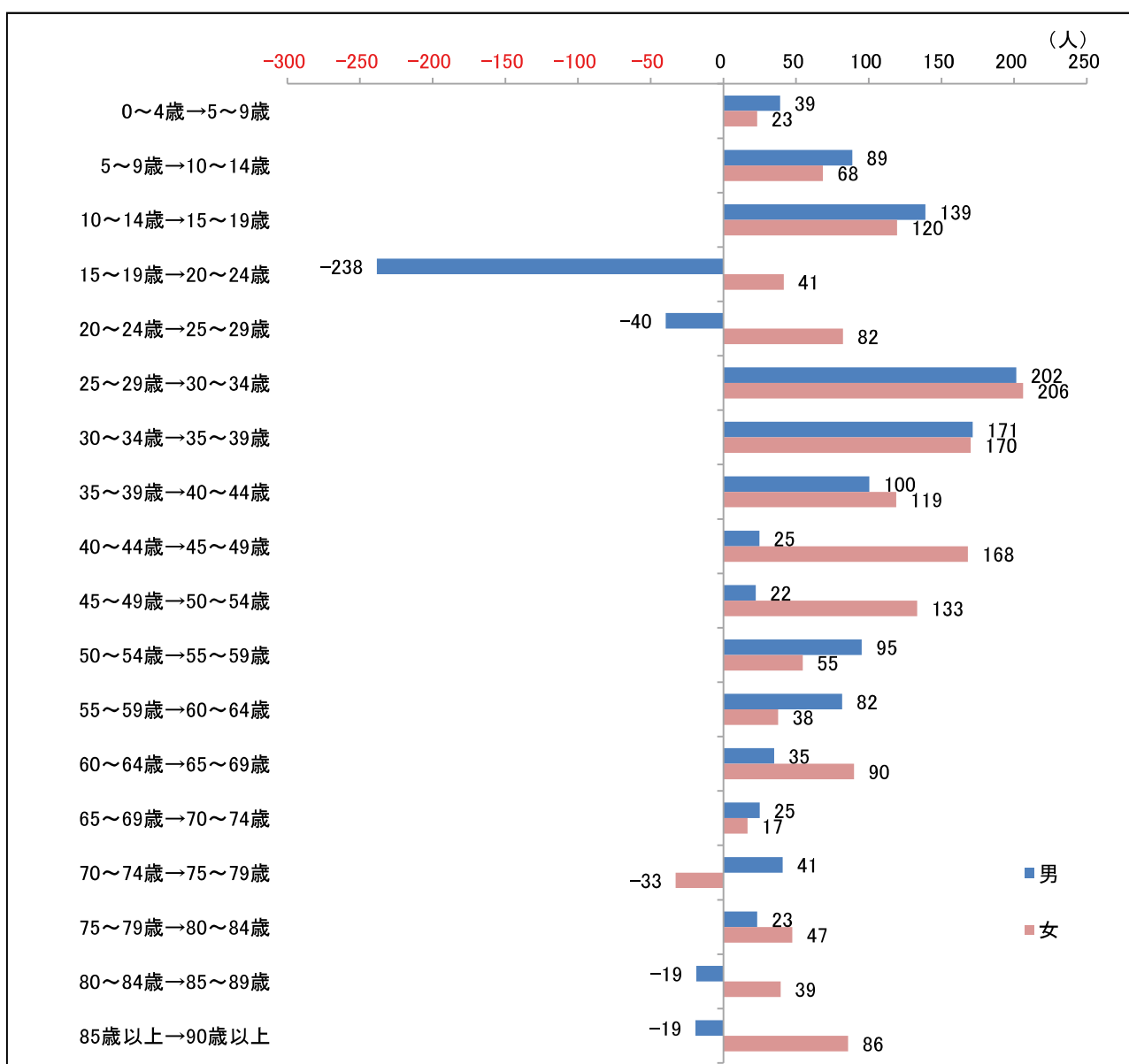


（資料）総務省住民基本台帳移動報告

③ 年齢階層の移動状況

5歳階級別の各年齢層が、5年後にどのように移動しているか（純移動数）を、平成17年（2005年）と平成22年（2010年）の人口から推計を行ったところ、男性の15～19歳が5年後に20～24歳に変化する層と、20～24歳が5年後に25～29歳に変化する層で、移動数がマイナス（市外に転出）となっています。これは、男性の場合、進学や就職で市外に出る人が多いものと考えられます。その他では、おおむね移動数がプラス（転入）の層が多くなっており、特に男性の20歳代後半から30歳代前半の層、女性の20歳代後半から40歳代後半の層が多く転入してきていることがわかります。

図表 年齢階層別純移動数推計（平成17年（2005年）→22年（2010年））



（資料）国勢調査（平成17年，22年），市区町村別生命表（平成22年）

※純移動数は、各年齢階層（コホート）の5年間の変化数から死亡数を差し引いて算出する。なお、死亡数は生命表を用いて算定した推計値であり、そのため純移動数も推計値となる。

④ 定住意向や居住環境に関する市民意識

「芦屋のまちづくりについての市民アンケート調査」（平成27年（2015年）3月実施）の結果をもとに、社会増減に関わる、定住意向や居住環境などについての市民意識を分析しました。

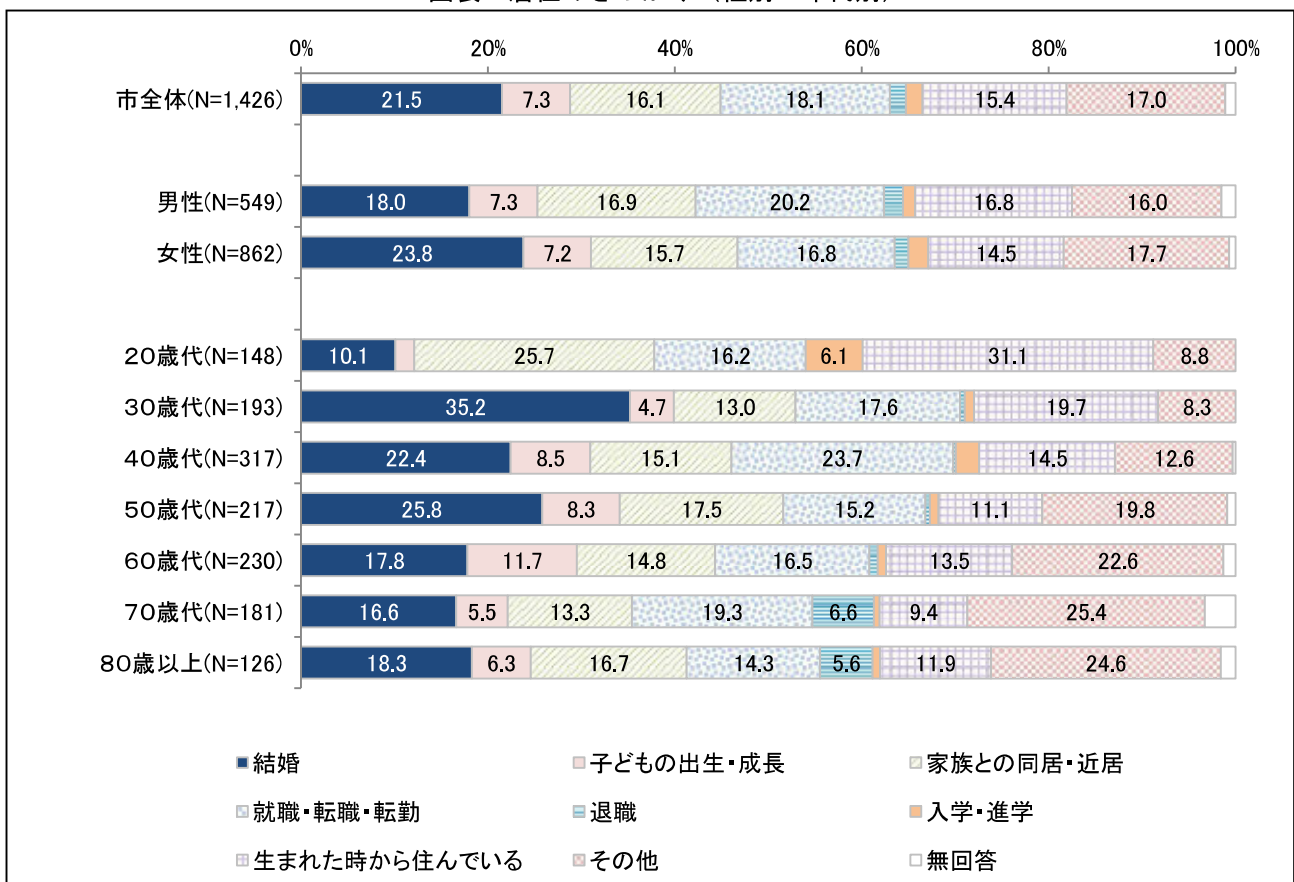
(ア)居住のきっかけ

居住のきっかけは「結婚」が21.5%で最も多く、「就職・転職・転勤」が18.1%と続いています。「その他」としては、住宅の購入などがあげられています。

性別では、「女性」の「結婚」の割合が男性よりやや高くなっています。

年代別では、「20歳代」では「生まれた時から住んでいる」，「30歳代」では「結婚」の割合が他の年代より高くなっています。

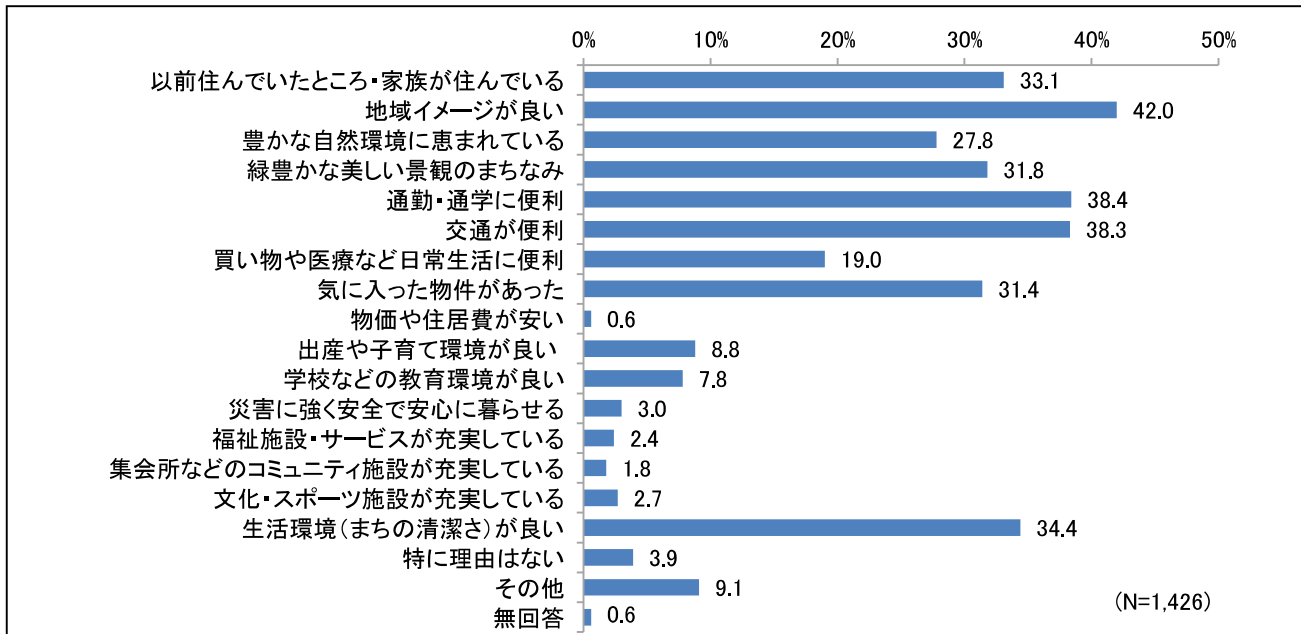
図表 居住のきっかけ（性別・年代別）



(イ)居住地として芦屋市を選んだ理由

居住地として本市を選んだ理由は「地域イメージが良い」が42.0%で最も多く、「通勤・通学に便利」が38.4%と続いています。「その他」としては「社宅があるため」などがあげられています。

図表 芦屋市を選んだ理由

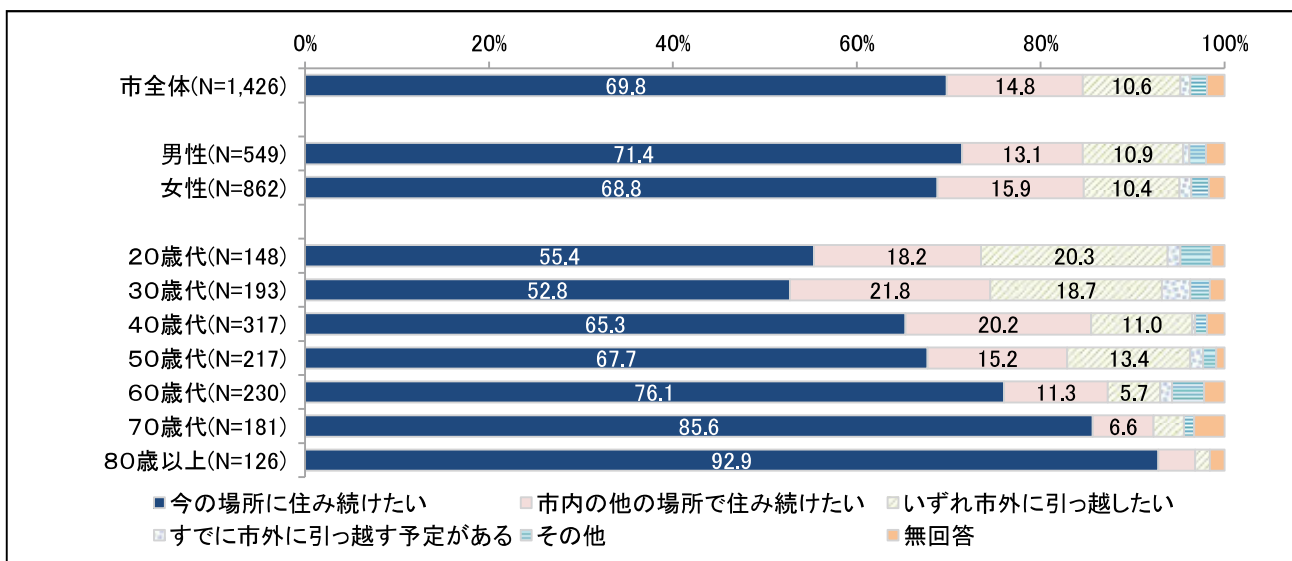


(ウ)定住意向

定住意向は「今の場所に住み続けたい」が69.8%で最も多く、「市内の他の場所で住み続けたい」が14.8%と続いています。両者を合わせると、84.6%が「芦屋市内で定住したい」と考えています。

年代別では、概ね年齢層が高いほど「今の場所に住み続けたい」の割合が高く、「20歳代」「30歳代」では「今の場所での定住」意向は約5割にとどまり、「市内での転居」と「市外への転出」がそれぞれ約2割となっています。

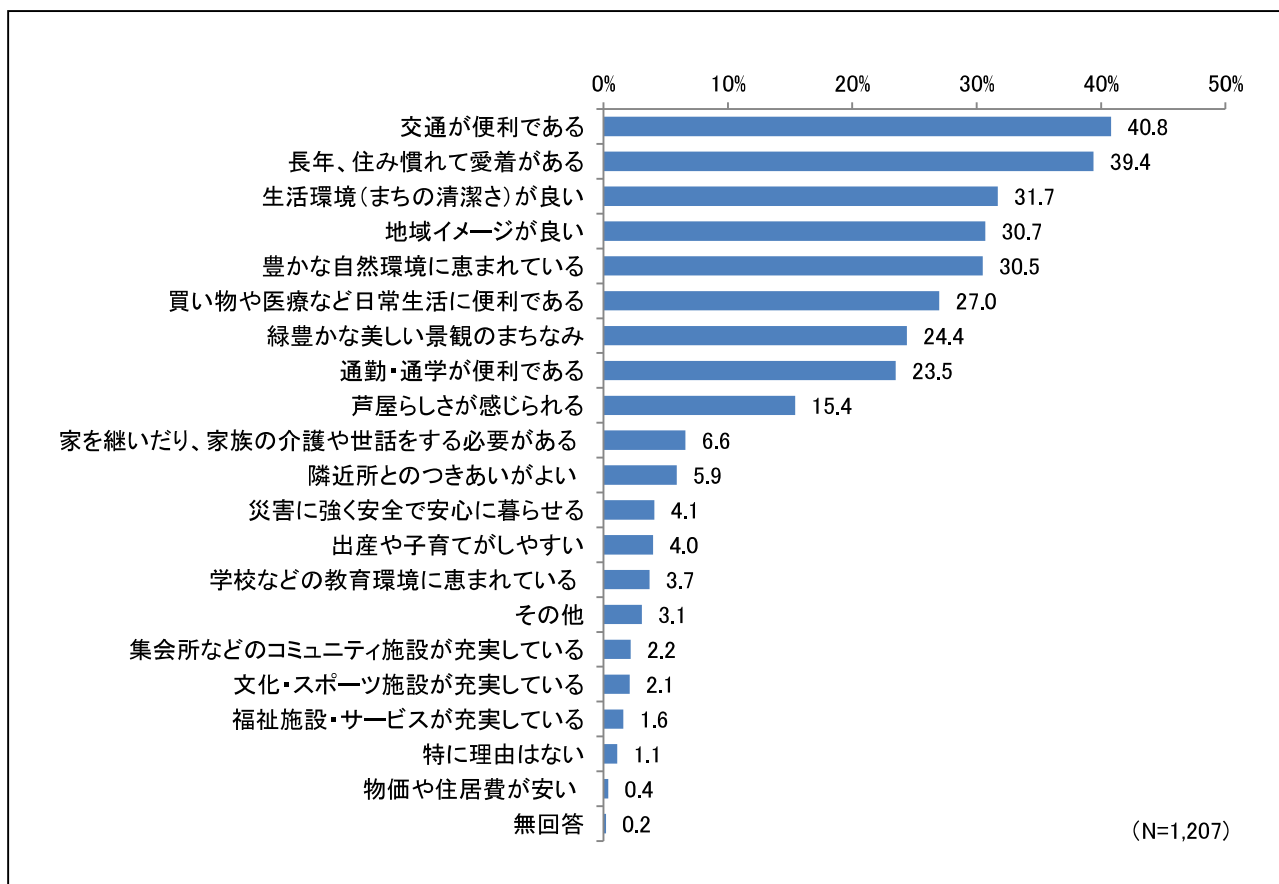
図表 定住意向 (性別・年代別)



(I) 芦屋市に住み続けたい理由

本市に住み続けたい理由は「交通が便利である」が40.8%で最も多く、「長年、住み慣れて愛着がある」が39.4%と続いています。

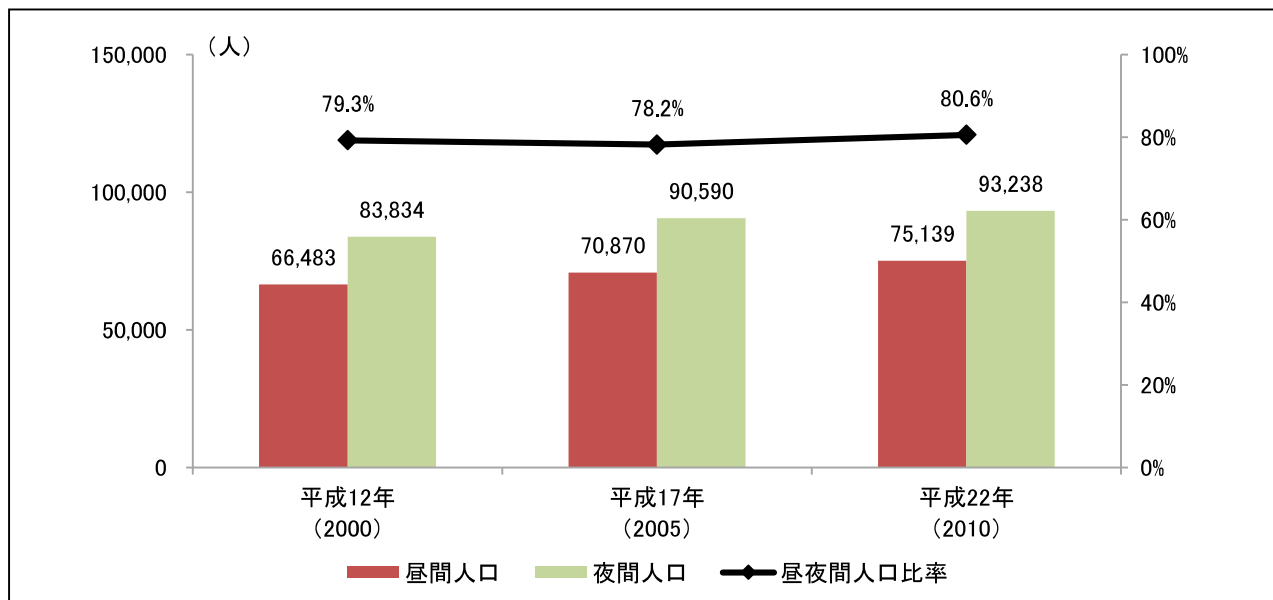
図表 住み続けたい理由



⑤ 昼夜間人口

昼夜間人口については、昼間人口に比べて夜間人口が多く、昼夜間人口比率は80%前後で推移しており、市外への通勤・通学者が多い人口構造となっています。

図表 昼夜間人口の推移



(資料) 国勢調査

※各年10月1日現在

就業者、通学者（15歳以上）の通勤・通学先を見ると、就業者の通勤先は大阪府、神戸市が多くなっています。一方、通学者の通学先は神戸市が多くなっています。

図表 流出入人口（平成22年（2010年））

	流出			流入			流入－流出		
	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者	総数	就業者	通学者
神戸市	10,309	8,760	1,549	5,660	4,569	1,091	-4,649	-4,191	-458
尼崎市	1,696	1,614	82	1,108	823	285	-588	-791	203
西宮市	4,282	3,595	687	3,863	3,128	735	-419	-467	48
伊丹市	292	285	7	364	271	93	72	-14	86
宝塚市	322	263	59	660	448	212	338	185	153
その他兵庫県内	801	718	83	1,064	814	250	263	96	167
大阪府	13,804	13,062	742	1,790	1,536	254	-12,014	-11,526	-488
その他	1,391	1,018	373	289	245	44	-1,102	-773	-329

(資料) 国勢調査

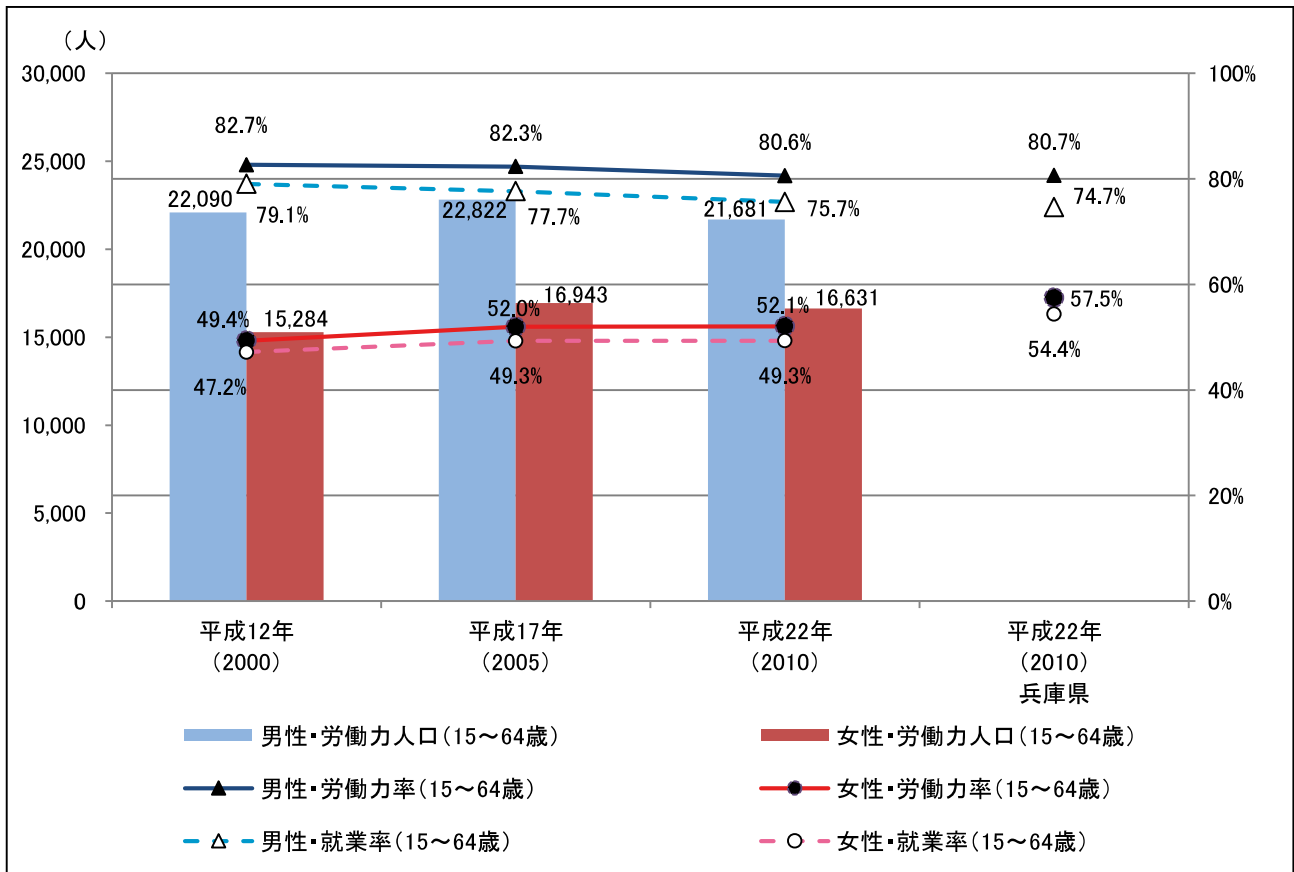
※10月1日現在

⑥ 労働力人口・就業者数

労働力人口（15歳以上の就業者数＋完全失業者数）については、このうち15～64歳の人数を見ると、男女とも、平成17年（2005年）から平成22年（2010年）にかけて減少が見られます。

労働力率は、平成22年（2010年）で男性80.6%、女性52.1%、就業率は、平成22年（2010年）で男性75.7%、女性49.3%となっており、兵庫県と比較すると女性の割合がやや低くなっています。

図表 労働力人口等（15～64歳）の推移



(資料) 国勢調査 ※各年10月1日現在

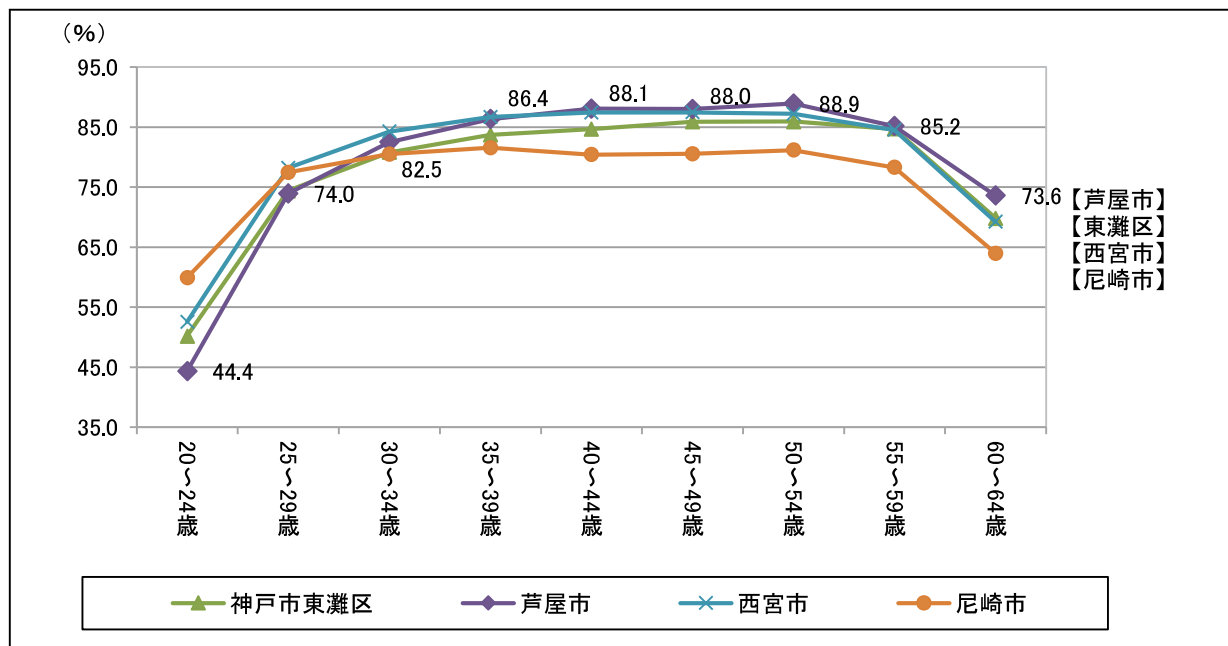
※労働力人口：総人口のうち、仕事をしている人及び仕事をする意思のある人の人口で、15歳以上の就業者数と完全失業者数を合わせたもの

※労働力率：人口に占める労働力人口の割合

※就業率：人口に占める就業人口の割合

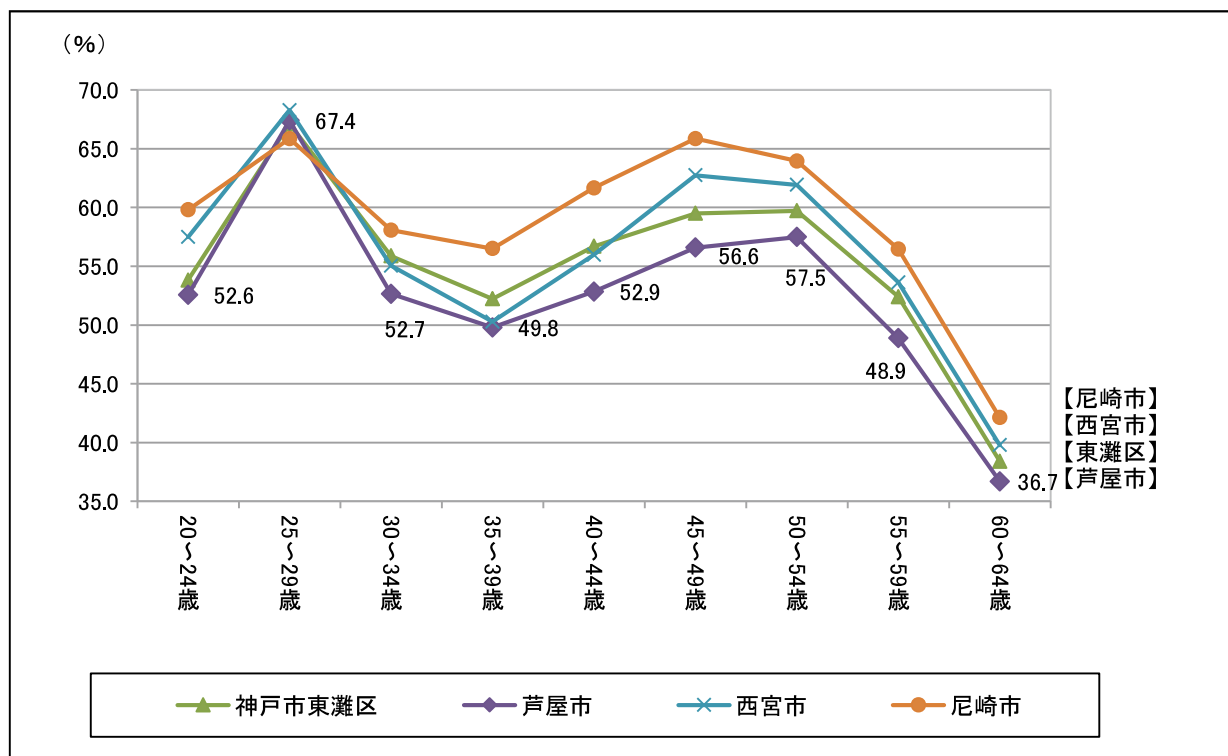
20歳から64歳までの男性の就業率について、近隣市と比較すると、40歳以上について芦屋市が最も高い水準となっています。

図表 男性の就業率（平成22年（2010年））



女性の就業率を近隣市と比較すると、25歳から29歳を除いて、芦屋市が最も低い水準となっています。

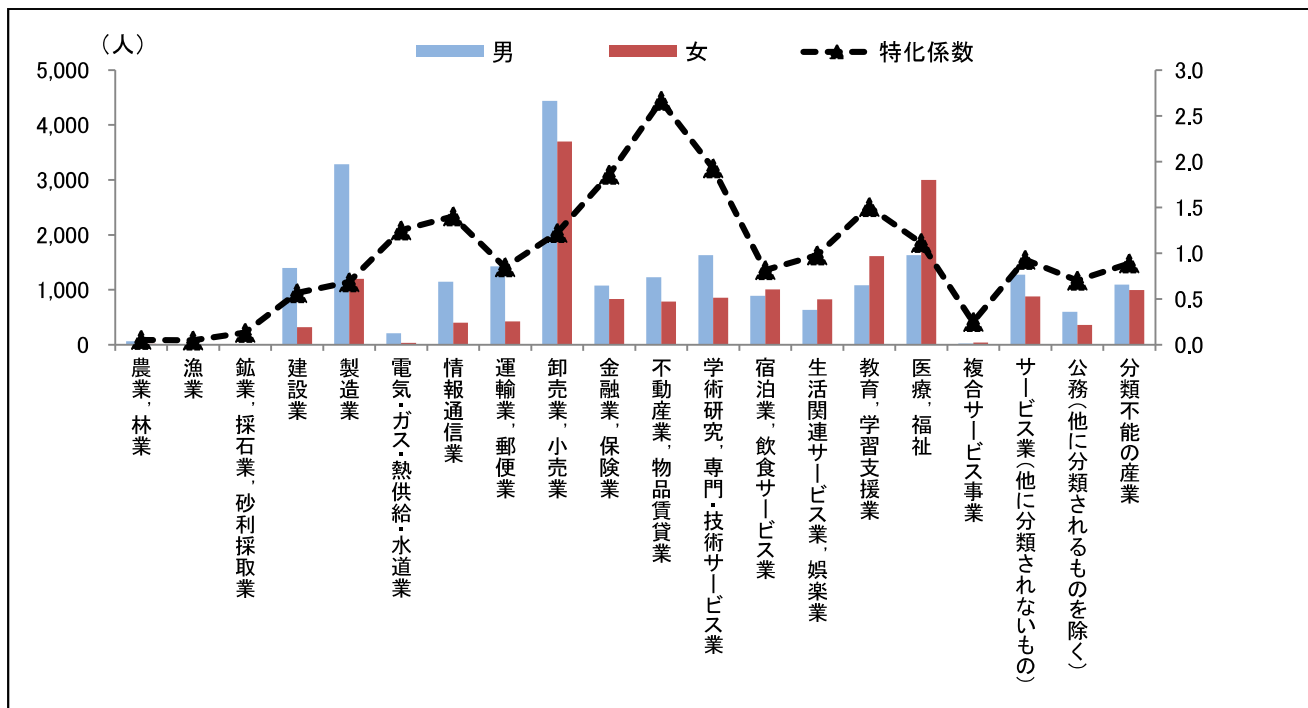
図表 女性の就業率（平成22年（2010年））



（資料）国勢調査 ※10月1日現在

産業別の就業者数を見ると、男性では「卸売業、小売業」、「製造業」が多く、女性では「卸売業、小売業」、「医療、福祉」が多くなっています。特化係数では、「不動産業、物品賃貸業」、「学術研究、専門・技術サービス業」、「金融業、保険業」、「教育、学習支援業」などで働く人が相対的に多いことがわかります。

図表 産業別就業者数（平成22年（2010年））



	就業者数(人)		特化係数
	男	女	
農業、林業	67	16	0.06
漁業	6	0	0.05
鉱業、採石業、砂利採取業	2	0	0.13
建設業	1,399	323	0.57
製造業	3,286	1,203	0.69
電気・ガス・熱供給・水道業	207	35	1.25
情報通信業	1,149	403	1.41
運輸業、郵便業	1,429	426	0.85
卸売業、小売業	4,437	3,701	1.22
金融業、保険業	1,076	833	1.86
不動産業、物品賃貸業	1,230	786	2.67
学術研究、専門・技術サービス業	1,634	856	1.93
宿泊業、飲食サービス業	892	1,006	0.82
生活関連サービス業、娯楽業	637	826	0.98
教育、学習支援業	1,083	1,613	1.51
医療、福祉	1,632	3,002	1.11
複合サービス事業	25	39	0.25
サービス業(他に分類されないもの)	1,274	879	0.93
公務(他に分類されるものを除く)	603	360	0.70
分類不能の産業	1,097	997	0.89
総数	23,165	17,304	1.00

(資料) 国勢調査 ※10月1日現在

※特化係数：「産業別就業者数の構成比/全国の構成比」で、その産業の従業者数が相対的にどの程度多いかを示すもの